

Bangladesh 訪問報告

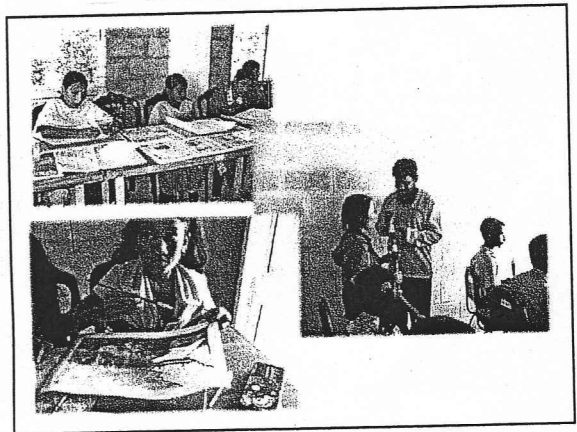
2008年1月28日

玉野市立東兎中学校 竹谷和子

訪問期間 12月23日～30日

今年、夏の訪問に続き2回目の訪問となった Bangladesh について、報告します。この度の訪問の主な目的は、かねてから準備を進めていたガザリアテンガッチョ学校と本校との友好校(MOU)の調印であった。調印式は昨年12月28日、AMDA Bangladesh、ガザリアの事務所で行われた。この日テンガッチョ学校の生徒代表30名近くと先生達、AMDAのスタッフ達、総勢50名の人々の見守る中、テンガッチョ学校長 AMDA ディレクター、ラザック氏と竹谷との3名での MOU への署名、交換で無事終了した。この日現地新聞記者からの取材もあり、この調印に至るまでの経過や調印の意義、今後の活動予定等を話し理解を深めていただいた。

この日の流れは午前中生徒達を3グループに分け、それぞれの部屋で絵を描く、モールや折り紙で工作をする、リコーダーを学ぶカルチャーにそれぞれ挑戦してもらった。生徒達は大変喜び、楽しく真剣に取り組み、いい作品を作った。竹谷がそれぞれの部屋を回り指導したが、この時間は事務所が生徒であふれ、あたかも学校そのものであった。その後昼前に調印式があり、昼食後3グループの発表をそれぞれおこなった。その後生徒達の歌や踊りの披露などがあり、その日大いに盛り上がった。

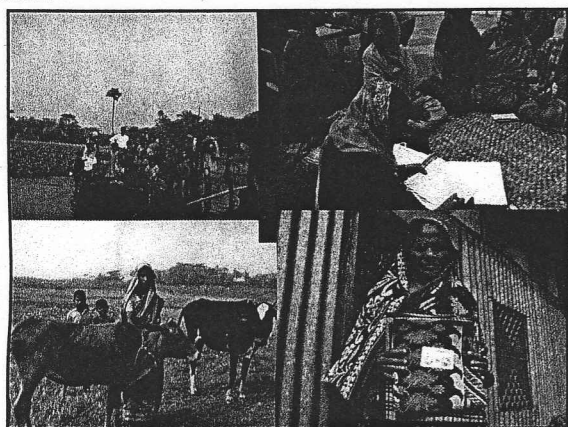


訪問期間の前半は AMDA バングラデシュの新たなプロジェクト地区を訪問した。ダッカから北へ車で約1時間、GAZIPUR 地区(AMDA AGROFARM)。プロジェクト一帯は山の中で、農園が中心である。森の中のたくさんの木々(ジャックフルーツ等)に囲まれとても自然豊かな美しい場所であった。ここで肉牛を育てたり(現在は3頭?)ひよこを育て、ブローラーとして販売することを中心に行われている。昨年からスタートしたAMDA バングラと他の人々との共同出資で、利益はそれぞれに分配されAMDA バングラが少し率が良くなっている。スタートしたばかりでまだ試行錯誤しながらチャレンジしているように見えた。このプロジェクトの目的についてラザック氏は次のように話している。

「今現在、多くのスタッフを抱えている AMDA バングラデシュはいい仕事をするためには優れたスタッフ達が必要である。彼ら達に少しでも満足させられる報酬を支払う必要がある。この最近物価が上がり、彼ら達に支払う報酬がそれに伴っていないことに悩んでいる。」これは大きな問題である。現に滞在中ガザリア地区でのスタッフの一人、シャハラジャンさんが退職された。何も報酬だけの問題ではないかもしれないが、竹谷の目から見て大変優秀で人間性あふれるスタッフだったので残念である。他のスタッフ達もとても優秀である。ぜひこのプロジェクトが成功することを願う。

滞在中の多くはガザリアで過ごした。調印が主であったのは先ほど述べたとおりだがテンガッチョ学校で久しぶりに再会した生徒達が元気そうで、人なつっこく微笑みかけ、話しかけてくれたのがうれしくて印象的だった。生徒達だけでなく先生方、スタッフ達も同じで、訪問するたびに次第に深まっていっているのが分かる。感謝です。

また、ガザリアではテンガッチョ村を2度訪ねることができた。初めは生徒達の家庭を訪れ、家族達と面会したり、家の様子等、家庭環境が少しだけでも理解できたのが大きな収穫であった。また2回目はマイクロクレジットの実態について村を訪れ、女性達が地区ごとにおよそ20名近く集まり返金している様子など見る事ができた。ラザック氏の計らいで彼女たちのリーダーやこのプロジェクトで成功したケースについてインタビュー



をさせていただいたり、仕事の現場に連れて行っていただくことで彼女達を含めた家族の様子とマイクロクレジットのシステムでどんなに多くの人々が助かっているかが理解できた。村はそんなに物質的には恵まれているとは思えないが村人

(特に女性達)が自分の子ども達や家族に一生懸命である。一生懸命生きている。村は他に衛生面において水やトイレその他多くの問題があるように思える。この村だけの問題ではないしこの地区以外もっと劣悪な地域もあると聞いている。今回事務所に隣接されているヘルスセンターに妊婦が運ばれたり(三回)重篤患者が運ばれてきたが、そのうち無事出産したのは一例で後、難産だったり夜間のためボートでダッカ市内の病院へ搬送されていた。しかし人々はとても親切で世話好きである。どこのエリアを訪れても子ども達がいっぱい始め物珍しく見ているが、次第に慣れてそばに寄り始め、カメラを向けると、はにかみながら喜んで応えてくれる。好奇心に満ちた顔で目を輝かせながらである。本当にかわいい。

今回の訪問はスタディツアーとして金光学園から米田 咲さんが同行。途上国の現状について学ぶものが多くあったと思う。日本の高校生の新鮮な目でこの国がどのように映ったかとても興味がある。彼女はともしっかりしており、体調を崩すことなく元気でしかも明るく、いろいろな人々とコミュニケーションをとる努力をしていた。特技の柔道を披露し、みんなに喜んでもらったのもよかった。ガザリアでは3日間、スタッフの家にホームステイをし大変大事にしてもらったと聞いている。この間彼女がどんどん変わっていったように思える。本当に大切なものに気が付き、熱いものを感じている米田さんがとても素敵に見える。テンガッチョの生徒達とほぼ同年齢の彼女がバングラデシュ、しかもガザリアテンガッチョ学校の生徒達と少しの時間だがお互い交流できたことは同世代の異文化理解にも繋がり、竹谷にとってもよかった。本当により意義深い訪問であった。

MOU も無事調印できたが、今後どのように活動を発展していくかが大きな課題である。本校の生徒達を中心にいろいろなアイデアを出し、準備しお互いの学校や国としてより実りのあるものにしていきたい。

この調印も含め今回の訪問が成功したのは AMDA 本部成澤様、AMDA バングラデシュラザック氏他多くのスタッフ達のご尽力のお陰です。

特に訪問の期間中、バングラが祝日・休日だったにもかかわらず、ほとんどのスタッフ達が総動員でしかも親身になってサポートしてくださいました。頭が下がります。本当に感謝しています。ありがとうございました。

